

## 岐阜県立岐阜工業高等学校

学校長 米澤 信雄

学校住所 岐阜県羽島郡笠松町常盤町1700 電話058-387-4141

1 会の名称 学校評議委員会

2 会の構成 委 員 恩田 秀比良 株式会社オンダ製作所 専務  
川島 裕美 地域住民代表  
佐々木 伸幸 育友会会長  
堤 博幸 名古屋鉄道株式会社 笠松駅長  
南谷 清美 地域住民代表

(委員名は五十音順)

学 校 側 米澤 信雄 校長 森 保 教務主任  
沢井 和弘 副校長 宮浦 英夫 生徒指導主事  
高橋 秀治 事務部長 本田 悟志 進路指導主事  
高橋 信行 教頭(全) 川地 節夫 工業部長  
高木 喜弘 教頭(全)

3 会の目的 学校運営等について、学校外の有識者等から幅広く意見を聞き、本校教育の改善・充実に資するとともに、地域社会からの支援・協力を得て、開かれた特色ある学校づくりを目指す。

4 会の開催 平成22年 7月2日(金) 13:15~15:30 岐阜工業高等学校 校長室  
委員4人と学校側9人が出席

5 会の概要

### 主テーマ 工業高校に期待するもの、地域から学ぶべきこと

校長挨拶 学校の経営方針について、今年1年は現状の把握を行い、昨年度までの教育方針を踏襲していく。日本一の工業高校を目指し、誇りを持てる学校となれるようにする。誇りを持つことによって、自ずから行動の規制を行えるように成ることを願っている。学校評議員のこれまでの成り立ちと法的位置づけ、期待していることについての説明をした。評議員は校長と学校の応援団だと思っているので、よりよい学校になるためのご意見をお願いしたい。

## 授業の見学

機械科： 2年実習  
建設工学科： 1年工業技術基礎  
化学技術科： 3年課題研究

- ・普通高校のようなクーラーもない、暑い中できちっと授業を行っていた。
- ・一所懸命実習に取り組む姿が好印象だった。



## 学校の教育現状について 報告

教育実践	学校長より	求人については昨年並みが期待されている。他校が厳しい中、本校は今のところ順調な滑り出しである。部活動、ものづくり、資格取得等で生徒が生き生きと活動している。
定時制	副校長より	定時制教育活動全般について
教務部		通学区域、教育課程の特徴について
生徒指導部		挨拶指導、安全指導について
進路指導部		進路状況について
工業教育部		ものづくり・資格取得状況について
特別活動部		各種大会の記録について（教頭説明）
渉外部		育友会の事業について（教頭説明）



## 工業高校に期待するもの、地域から学ぶべきこと

- ・地元の産業企業が活性化できる人材を育てて欲しい。
- ・誇りを持って生きられる生徒に成って欲しい。
- ・道路で倒れて荷物を散らかしてしまったおじいさんを助けて、お礼を言われて、すがすがしい気持ちになったと子どもが話していたという話をしてくれた保護者がいた。当たり前の事を当たり前でできる人間に育っていることだと思うので、これからもこの方向で教育して欲しい。
- ・厳しいことに出逢っても伸びていける子にして欲しい。多少のことはへこたれないで、打たれ強い子になって欲しい。ストレスを乗り越えられる強い心が必要である。
- ・勉強に無駄になるものはない。全く関係ないような資格も将来役に立つし、興味を持っているようなことに当たれるようになる。自分のやりたいことを見つけられるとなお良い。
- ・野球と同じように 3割バッター、つまり7割ミスをしてでも何とかなるものである失敗を恐れずに挑戦して欲しい。
- ・先生も勉強して、いろいろと学んで欲しい。生徒から私の恩師ですと胸を張っていってもらえる先生になって欲しい。
- ・社会から満足してもらえる生徒を量産して欲しい。
- ・部活動がやりたいからとか、ものづくりがしたいからとか、様々な理由で入学した子が、3年間に籍したことで、当初思ってもいなかった事ができるようになって卒業していつている。
- ・社会や会社では多様性が大事であり、企業も多様性を持った採用をしている。多様性のないものは簡単に全滅してします。8学科でも足りないくらいである。工業だと機械科だけが在ればいのように考える人もいるが、できるだけ多様な学科が必要である。
- ・明るく笑顔で話ができるのが大切である。通学の時に挨拶してくれる。地元の人とのコミュニケーションが大切である。地域社会の美化に協力したらよい。